

## デザイン工学研究科

## I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2019年度大学評価結果総評】（参考）

デザイン工学研究科では、全般的に適切な取り組みが行われていると評価できる。2018年度の重点目標に挙げられていたSGUプログラム設置準備委員会の立ち上げは見送られたものの、「I 2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価」にも記述があるように、グローバル化については、新規の英語授業設置ではなく、既存のプログラム上での実現を目指す理科系学部として、今後の方針決定に期待したい。また、年度目標に対する達成指標をより明確に記述することが望まれる。

## 【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2019年度の大学認証評価結果において、“デザイン工学研究科では「人材の育成に関する目的及び教育研究上の目的」を修士課程、博士後期課程で同一としているため、課程ごとにこれを定め、公表するよう改善が望まれる。”及び“教育課程の編成・実施方針について、デザイン工学研究科（博士後期課程）では、教育課程の実施に関する基本的な考え方が示されていないため、改善が求められる。”の指摘を受けており、それに対して、大学の教育目標のデザイン工学研究科の各専攻の部分で「修士課程」と「博士後期課程」を区分して記述し、学則の改訂を行うとともに、「カリキュラムポリシー」に関する記述における基本的な考え方を示すとともに、履修の手引きも併せて変更を行う。また、年度目標に対する達成指標を極力具体的に記述するようにする。

## 【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

デザイン工学研究科では、2019年度認証評価結果の概評での指摘事項への対応として、教育目標のデザイン工学研究科の各専攻の部分で「修士課程」と「博士後期課程」を区分して記述すること、学則における各専攻の教育目標の記述を改訂すること、カリキュラムポリシーに関する記述において基本的な考え方を示すこと、履修の手引きを変更することを改善計画として示しており、評価できる。これらは、教授会で承認されており、速やかな実施が強く望まれる。

また、2019年度大学評価委員会の評価結果への対応としては、グローバル化推進に関して、研究科の各専攻でのグローバルな取り組みについて調査結果の共有は教授会で行われたものの、ロールモデルの作成には至らなかったため、今後も継続して検討が望まれる。

「年度目標に対する達成指標」については、ある程度具体的な記述がなされるようになったが、さらなる改善が望まれる。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## 【2020年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

S  A B

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

2010年度の研究科開設当初からの一貫した教育課程編成・実施基本方針として、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ運用している。これらは、カリキュラムポリシーやカリキュラムツリー、履修案内として履修ガイドやホームページ、大学院案内、募集要項に記載され、これに基づいたコースワークとリサーチワーク・修了要件が明示されている。また、建築学専攻では日本技術者教育認定機構（JABEE）より、学士課程と学士修士課程の2つの教育プログラムの同時認定を取得している。この認定により、UNESCO-UIA（国際建築家連合）提唱の建築教育憲章に基づく国際的な教育プログラムとの同等性が保証されている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・デザイン工学研究科 URL : <http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html> (2020年5月着信確認)

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド</li> <li>大学院案内 (デザイン工学研究科)</li> </ul>	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【根拠資料】</b> ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン工学研究科 URL : <a href="http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html">http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html</a> (2020年5月着信確認)</li> <li>法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド</li> <li>大学院案内 (デザイン工学研究科)</li> </ul>	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>必修科目としてプロジェクト科目、選択科目として専門科目がそれぞれ配当され、コースワークとリサーチワークの適切な組み合わせによる教育が行われている。また、博士學位論文の審査と最終試験の合格を修了要件として設定している。これによって、リサーチワークで進める研究分野の知識だけではなく、広い分野にわたる高度な学識と総合デザイン能力を備えた人材を育成する教育プログラムとなっている。さらに、システムデザイン専攻では専門科目のうち First major に加えて Second major として他分野の専門科目も履修することを修了要件としている。</p> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン工学研究科 URL : <a href="http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html">http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html</a> (2020年5月着信確認)</li> <li>法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド</li> <li>大学院案内 (デザイン工学研究科)</li> </ul>	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本研究科に関わる専門分野における学術進化・技術革新は著しく、各教員は最前線の情報を修得しながら教材開発と先端的研究課題の設定に努めている。専門科目の高度化に対応するため、各専攻にはスタジオ科目やプロジェクト科目が配当されている。</li> <li>本研究科修士生が、激動する自然・社会環境に順応しながら総合デザイン能力を発揮し社会に貢献できるように、教育研究内容を随時更新しながら学術・技術を教授し、総合デザイン力を修得した高度な専門職業人を育成している。</li> <li>研究科の学生が作品の制作実習をより効果的に行うため、学部と連携して、3Dプリンタやレーザーカッターなどのものづくり環境の整備を行うとともに、造形製作室やデジファブセンターの整備を行った。</li> </ul> <p><b>【博士】</b></p> <p>本研究科に関わる専門分野における学術進化・技術革新は著しく、各教員は最前線の情報を修得しながら教材開発と先端的研究課題の設定に努めている。専門科目の高度化に対応するため、各専攻には専門科目とプロジェクト科目を適切に組み合わせで配当している。本研究科修士生が総合デザイン能力を発揮し社会に貢献できるように、高度な総合デザイン力に基づく企画開発能力を備えた教育者、研究者、指導者など専門特化型人材を育成する仕組みとなっている。</p> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン工学研究科 URL : <a href="http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html">http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html</a> (2019年5月着信確認)</li> <li>法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド</li> <li>大学院案内 (デザイン工学研究科)</li> </ul>	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/>
<p>※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「海外研修プログラム1 (建築学専攻科目)」では米国・南カリフォルニア建築大学を、「海外研修プログラム2 (全専攻共通科目)」では米国・ユタ大学を、それぞれ提携校として交換プログラムを継続的に実施し、本学大学院生を派遣するとともに提携校学生を受け入れて教育研究交流を深めているが、今年度は新型コロナウィルスの影響で海外研修プロ</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

グラムを中止した。

- ・建築学専攻では、2019年度に南カリフォルニア建築大学、ハーバード大学、大連理工大学（中国）などとワークショップを開催した。ただし、2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止された。
- ・都市環境デザイン専攻では、JSCE（土木学会）-CICHE（中国土木水利工程學會）ミーティング・若手セッション構築のためのWGへの参加を行った。
- ・システムデザイン専攻では、南フィリピン大学において個人レッスン90時間・グループレッスン60時間に及ぶ「技術英語演習」（C期・50日間）を2019年度実施した。ただし、今年度は新型コロナウイルスの影響で中止した。
- ・全学が運用するグローバル化推進の諸制度（留学、海外活動などへの助成制度）への応募を学生に奨励している。
- ・学生の国際会議での発表や海外調査活動を奨励しており、2019年度は延べ9名の修士課程学生が国際会議で発表を行い、12名の修士課程学生が海外調査活動を行った。ただし、今年度は新型コロナウイルスの影響で国際会議の多くが中止もしくは次年度以降に延期となっており、大幅な減少になると予想される。

#### 【博士】

博士課程学生にとって、国際会議での発表や海外での調査活動はグローバルに活躍する研究者として必須であり、積極的な発表を奨励している。2019年度は延べ6名の博士課程学生が国際会議で発表を行い、3名の博士課程学生が海外調査活動を行った。ただし、今年度は新型コロナウイルスの影響で国際会議の多くが中止もしくは次年度以降に延期となっており、大幅な減少になると予想される。

#### 【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

#### 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学研究科教授会資料

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S  A B

※履修指導の体制および方法を記入。

#### 【修士】

- ・4月にガイダンスを実施しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で資料配布のみとした。
- ・外国人留学生に対して、チューター制度を利用して指導教員とチューターが履修上の助言を与えている。
- ・教員は、研究指導のみならず学生の履修上の相談にも随時応じている。
- ・建築学専攻においては、国際的な建築教育（5年間の建築教育）を満たすことを保証するJABEE認定建築系学士修士課程プログラムの対象者（スタジオ系志望者およびJABEE認定プログラム履修志望者）全員に対して複数教員の個人面談により研究・履修計画を指導している。

#### 【博士】

- ・4月にガイダンスを実施しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で資料配布のみとした。
- ・外国人留学生に対して、チューター制度を利用して指導教員とチューターが履修上の助言を与えている。
- ・教員は、研究指導のみならず学生の履修上の相談にも随時応じている。

#### 【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

#### 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド
- ・デザイン工学研究科教授会資料

②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい  いいえ

※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。

#### 【修士】

・履修ガイドに履修登録・成績通知・進級・修了発表など一連の履修手続きを示すとともに、研究指導計画、修了要件、学位論文審査基準、論文作成要領などを記載し、年度初め4月のガイダンスに際し学生に配布指導している（今年度は、ガイダンスを実施できなかったため、資料配布のみを行った）。指導については、各指導教員が実施する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・各専攻では、4月のガイダンス時に論文審査スケジュールを配布・掲示するとともに、指導教員から学生へ周知しているが、今年度は論文審査スケジュールを配布し、各指導教員から学生への周知徹底を行った。

**【博士】**

・履修ガイドに履修登録・成績通知・進級・修了発表など一連の履修手続きを示すとともに、研究指導計画、修了要件、学位論文審査基準、論文作成要領などを記載し、年度初め4月のガイダンスに際し学生に配布指導している（今年度は、ガイダンスを実施できなかったため、資料配布のみを行った）。指導については、各指導教員が実施する。

・各専攻では、4月のガイダンス時に論文審査スケジュールを配布・掲示するとともに、指導教員から学生へ周知しているが、今年度は論文審査スケジュールを配布し、各指導教員から学生への周知徹底を行った。

**【根拠資料】** ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。

- ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド
- ・論文審査スケジュール配布資料

③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。

はい  いいえ

※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。

**【修士】**

履修ガイドに記載された「本研究科の各専攻会議は修士の学位申請に対し、その受理の可否を決定し審査にあたる主査と1人以上の副査を定める。」のルールに従い、研究指導計画に基づく研究指導、学位論文の執筆指導が適切に行なわれている。また、「履修から進級および修了に至るコースワークにおいても主査と1人以上の副査の下で指導を受ける」こととなっている。

**【博士】**

履修ガイドに記載された「本研究科の各専攻会議は博士の学位申請に対し、その受理の決定および論文審査のため、本研究科内に審査委員会を置く。審査委員長は原則として研究科長が務める。・・・（中略）・・・審査委員会における審査の結果、受理が決定した場合には、審査委員会の中に主査と2人以上の副査からなる審査小委員会を設ける。小委員会では、学問的な内容に関する審査と並んで、以下の諸点（省略）に関する試験または試問及び評価を行う。」のルールに従い、研究指導計画に基づく研究指導、学位論文の執筆指導が適切に行なわれている。また「履修から進級および修了に至るコースワークにおいても主査と1人以上の副査の下で指導を受ける」こととなっている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド

1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

S  A  B

※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。

**【修士】**

- ・Web シラバスには、成績評価の方法と基準が明記され、成績評価の公平性を確保している。
- ・成績評価に関する問い合わせがあった場合には、担当教員が事務室と連携しながら適切に対応している。
- ・授業外学習の状況は、教員毎に様々な方法で確認されている。課題作品、課題レポート、演習問題、輪講の担当割り当てなどにより、授業外学習の実態が正確に把握され、その評価は単位認定に反映されている。
- ・建築学専攻では、成績評価に関する根拠資料として、全科目の成績評価と単位認定に関する資料がIAEサーバーに記録・保管されている。
- ・学生が留学して留学先機関の授業を受講する場合には、本研究科と留学先機関のシラバスを比較し、専攻主任が単位読み替え原案を作成し専攻会議で審議の上、単位認定の是非を判断している。

**【博士】**

- ・Web シラバスには、成績評価の方法と基準が明記され、成績評価の公平性を確保している。
- ・成績評価に関する問い合わせがあった場合には、担当教員が事務室と連携しながら適切に対応している。
- ・授業外学習の状況は、教員毎に様々な方法で確認されている。課題作品、課題レポート、演習問題、輪講の担当割り当てなどにより、授業外学習の実態が正確に把握され、その評価は単位認定に反映されている。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・Web シラバス

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 学位論文審査基準は、履修ガイドに明記され、4月のガイダンスの際に専攻主任から学生に説明・周知されているが、今年度はガイダンスができなかったため、各指導教員から学生に説明を行っている。</p> <p><b>【博士】</b> 学位論文審査基準は、履修ガイドに明記され、4月のガイダンスの際に専攻主任から学生に説明・周知されているが、今年度はガイダンスができなかったため、各指導教員から学生に説明を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド</p>	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※簡条書きで記入※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>学位論文審査基準に基づき学位が授与されている。学位論文の可否は、各専攻の審査会の結果を経て、専攻会議と研究科教授会で判定されている。学位授与状況は、専攻会議・研究科教授会の会議資料として整理され、紙媒体と電子データにより保管される。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・デザイン工学研究科教授会資料</p>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 修士学位論文に関しては、履修ガイドに記載された4項目の学位論文審査基準の充足状況を審査会で厳密に審査し、可否を専攻会議で審議して判定している。 学位の水準を保つため、学生へ各学協会等での研究発表を奨励するとともに、優れた業績に対して学生に授与される学術賞は教授会に報告され、学生の研究水準を教授会で確認している。</p> <p><b>【博士】</b> 博士学位論文に関しては、当該学生の成果が学術論文に第一著者として1編以上（課程博士）あるいは2編以上（論文博士）が原著論文として掲載（決定）済みであることが要求される。なお、学術論文誌と同等の水準を有する単著の学術図書であれば原著論文に読み替えることができる。これらの基準の取り扱いは、履修ガイドに明記され、この基準を満たさない場合には不合格と判定する。 学位の水準を保つため、学生へ各学協会等での研究発表を奨励するとともに、優れた業績に対して学生に授与される学術賞は教授会に報告され、学生の研究水準を教授会で確認している。</p> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド</p>	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。</p> <p><b>【修士】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本研究科の各専攻会議は、修士の学位申請に対し、その受理の是非を法政大学学位規則に照らして決定し、審査にあたる主査と1人以上の副査を定めている。</li> <li>・主査・副査は、研究指導を通して提出された論文が学位に値するか否かを判断し、可の場合には審査会での審査に付す。</li> <li>・審査会では、主査・副査を含む全教員が法政大学学位規則と本研究科が定める学位論文審査基準に照らして修士論文を審査し、専攻会議により可否判定案を審議決定する。</li> <li>・研究科教授会は、専攻会議から提案される可否判定案を審議し、合格と判定された場合に当該学生へ修士の学位が授与される。</li> <li>・これらの手続と責任体制は、履修ガイドに明記されている。</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<b>【博士】</b> 学位規則の通り	
<b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学学位規則 ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 ・各専攻では、就職担当教員を中心にキャリアセンターの協力を得ながら大学院生の就職や進学状況を指導・把握・管理し、修了生に関しては同窓会組織との情報共有に努めている。 ・各専攻の研究室単位でも学生の就職や進学情報を収集し、各専攻が集約・管理している。 ・就職や進学状況の情報は、電子データとして保管され、個人情報には厳格に管理されている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各専攻会議資料	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。 <b>【修士】</b> ・学習成果を測定するためにGPAを導入している。これは、履修した科目の成績評価に基づいたものであり、各分野の特性に応じているといえる。 ・建築学専攻では、修士論文・修士設計の中間発表を行い、修士論文・修士設計の課題設定が適切であることを確認している。都市環境デザイン工学専攻では、原則C期（10～11月）に研究室または系単位での中間発表を行い、修士論文の課題設定や進捗状況が適切であることを確認している。システムデザイン専攻では、修士課程2年の9月初旬に修士論文の中間審査を行い、修士論文への学生の取り組み状況が適切であることを確認している。 <b>【博士】</b> ・学習成果を測定するためにGPAを導入している。 ・博士課程学生の成果は学術論文等への原著論文で確認している。	
<b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 <b>【修士】</b> ・本研究科では、成績評価に基づいてGPAを算出し、学生の学習成果を的確に把握・管理している。 ・GPAを基準にして、成績優秀者表彰や就職先への学校推薦対象者を選考している。 ・各専攻における学習成果とその評価は、専攻主任会議において随時共有され、適正な評価となるように分析している。 ・建築学専攻では、優秀修士設計選考会（大江宏賞公開講評審査会）において外部審査員の参加の下に学習成果を評価している。 ・都市環境デザイン工学専攻では、修士論文審査会における評価結果に基づいて最優秀論文賞・優秀論文賞を各一編選考し表彰している。 ・システムデザイン専攻では、プロジェクト科目で制作した作品を学外コンペに応募し、作品の創造性や完成度等が外部審査員から評価されている。また、展示会などに積極的に参加し、研究成果や作品の展示を行っている。 <b>【博士】</b> ・本研究科では、成績評価に基づいてGPAを算出し、学生の学習成果を的確に把握・管理している。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・各専攻における学習成果とその評価は、専攻主任会議において随時共有され、適正な評価となるように分析している。
- ・研究成果は、学術論文等への原著論文に対するピアレビュー方式やコンペへの作品に対する審査員により評価されている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各専攻会議資料
- ・各専攻HP

1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S  A B

※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

#### 【修士】

- ・各専攻では、学習成果の定期的検証とそれに基づく教育課程の内容・教育方法の改善・向上を図っている。研究科教授会の承認を要する事項に関しては、教授会に諮り、学務部所掌の事項に関しては研究科事務との連携によって改善・向上を図っている。
- ・修士論文の審査は、専攻教員全員の参加によって実施され、学習成果を検証するとともに、教育課程の内容・方法の改善・向上に取り組んでいる。
- ・建築学専攻は、建築学科と合同でスタジオ担当の専任・兼任教員全員参加の下にデザインスタジオ連絡会議を年度末に実施し、教育課程の検証と改善方策を審議している。修士論文に加えて修士設計も全専任教員が審査するとともに、大江宏賞公開講評審査会（優秀修士設計選考会）では、外部審査員の参加の下に学習成果を検証している。専攻会議では随時、教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。
- ・都市環境デザイン工学専攻では、指導教員別あるいは系単位で実施される研究室ゼミにおいて学習成果を随時点検している。学部と合同で実施する講師懇談会（年1回開催）および拡大教室会議（年1回開催）には、専任・兼任教員が参加し、学習成果の検証方法、教育課程の改善・向上方策に関して意見交換・情報共有を図っている。専攻会議では、随時、教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。
- ・システムデザイン専攻では、学部と合同で実施する講師懇談会（年1回開催）に専任・兼任教員が参加し、学習成果の検証方法、教育課程の改善・向上方策に関して意見交換・情報共有を図っている。専攻会議では、随時教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。

#### 【博士】

- ・各専攻では、学習成果の定期的検証とそれに基づく教育課程の内容・教育方法の改善・向上を図っている。研究科教授会の承認を要する事項に関しては、教授会に諮り、学務部所掌の事項に関しては研究科事務との連携によって改善・向上を図っている。
- ・博士学位論文の審査は、主査・副査を含む専攻の教員の参加によって実施され、学習成果を検証するとともに教育課程の内容・方法の改善・向上に取り組んでいる。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。

S  A B

※取り組みの概要を記入。

授業改善アンケート結果は、専攻会議で整理・分析され、教授会にて報告・確認されている。各教員は、Web シラバスに前年度のアンケート結果に対する改善策を記入することが義務化され、Web 上に公開し恒常的な教育改善を図っている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・ Web シラバス

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・研究科の学生が作品の制作実習をより効果的に行うため、学部と連携して、3Dプリンタやレーザーカッターなどのものづくり環境の整備を行うとともに、造形製作室やデジファブセンターの整備を行った。	1.1 ④

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・大学院のグローバル化を推進するため、海外研修プログラムを準備するとともに、学生の国際会議への参加や発表を奨励している。しかし、プログラム実施に必要な費用が学生に大きな負担となっており、費用面で参加を見合わせる学生が多いのが現状である。2019年度においても「海外研修プログラム1・2」において参加希望者がプログラム実施のための最少催行人数を満たせず、実施されていない。そのため、奨学金の拡充、大学院学会等発表補助金の拡充及びプログラム内容の工夫等を検討していく必要がある。さらに、今年度は新型コロナウイルスの影響で海外研修プログラムが中止されており、また国際会議の多くが延期または中止となっており、学生の海外での活動の場が大幅に縮小されており、これらに対する対応を行っていく必要がある。	1.1 ⑤

## 【この基準の大学評価】

デザイン工学研究科に関わる専門分野における学術進化・技術革新は著しく、各教員は最前線の情報を修得しながら教材開発と先端的研究課題の設定に努めている。専門科目の高度化に対応するため、各専攻にはスタジオ科目やプロジェクト科目が配当されている。研究科の学生が作品の制作実習をより効果的に行うため、学部と連携して、3Dプリンタやレーザーカッターなどのものづくり環境の整備を行うとともに、造形制作室やデジファブセンターの整備を行ったことは評価できる。

グローバル化を推進するため、海外研修プログラムを準備したり、学生の国際会議への参加や発表を奨励している。しかし、費用面で参加を見合わせる学生が多いため、奨学金や学会等発表補助金の拡充及びプログラム内容の工夫等を検討していく必要がある。さらに、今年度は新型コロナウイルスの影響で海外研修プログラムや国際会議の多くが延期または中止となっており、学生の海外での活動の場が大幅に縮小されており、これらに対する適切な対応が望まれる。

研究指導計画については、履修ガイドに履修登録・成績通知・進級・修了発表など一連の履修手続きを示すとともに、研究指導計画、修了要件、学位論文審査基準、論文作成要領などを明らかとし、各指導教員が学生に丁寧に説明しており、評価できる。

教育課程の内容・方法の適切性についての点検・評価や、それらの改善・向上に向けた取り組みは評価できる。建築学専攻では、建築学科と合同でスタジオ担当の専任・兼任教員全員参加の下にデザインスタジオ連絡会議を年度末に実施し、教育課程の検証と改善方策を審議しており、大江宏賞公開講評審査会（優秀修士設計選考会）では、外部審査員の参加の下に学習成果を検証している。

## 2 教員・教員組織

### 【2020年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。

S  A B

【FD活動を行なうための体制】※簡条書きで記入。

・FDに資する学内外の様々な研修会・講演会・ワークショップに教員を派遣し、研究科あるいは専攻の会議体で活動報告がなされるとともに教育改善に努めている。

・教員は、FDに資する書籍・文献を収集・学習し、専攻（教室会議）など研究科の様々な会合において修得した知識・情報を開陳し教育改善に反映している。

・教員は、授業改善アンケートの結果に基づき授業改善計画を策定してWebシラバス上に公表するとともにし、次年度の

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

授業改善に活かしている。

・建築学専攻では、JABEE 認定建築系学士修士課程プログラムを継続・改善するための取り組みをFD活動の一環に位置付けている。具体的には、シラバスの点検・確認・改善、学習アウトカムズに関するデータ収集、成績評価方法の共有などを通して教育内容と方法を継続的に改善している。2019年度はJABEE継続審査を受審し、6年間の継続認定を受けた。また、デザインスタジオの合同講評会や学部・専攻で合同実施するデザインスタジオ連絡会議は教育改善効果をもたらしている。

・都市環境デザイン工学専攻では、FD関連のシンポジウム・講演会等への参加を推奨し、FD活動報告書の提出を義務づけている。また、次のようなWGを設置し、その活動成果を専攻会議や兼任講師を交えた講師懇談会、拡大教室会議で報告している。教育内容WGでは、授業・カリキュラムの改善案を検討し、教室会議で提案・実施を行っている。学習・教育到達目標WGでは、育成しようとする技術者像を示し、これを実現するための学習教育到達目標を定めている。教育環境WGでは、学習・教育到達目標を達成するための教育環境の質を保持・改善するための方策を検討している。その他に、教育改善WG、広報・資料WG、卒業生連携WGを設置している。

・システムデザイン専攻では、教育改善を果たすための教員間の情報共有、教育手法の相互啓発に関する意見交換を重視している。全教員が分担するプロジェクト科目の教育内容に関する会議を定期的に開催し、受講学生の個性・特徴を活かした効果的アクティブラーニングの実施方法を集中的に議論している。

**【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】** ※箇条書きで記入。

- ・自己点検評価委員会，2019年4月18日（木），専任教員1名（SD）
- ・第1回自己点検懇談会，2019年6月6日（木），専任教員1名（SD）
- ・大学評価委員会の研究科長インタビュー，2019年7月15日（月），専任教員1名（SD）
- ・私立大学情報教育協会・ICT利用教育改善発表会，2019年8月9日（金），専任教員1名（SD）
- ・JABEE建築分野受審・審査セミナー，2019年8月20日（火）13:00～17:00，建築学会，専任教員1名（建築）
- ・日本建築学会大会パネルディスカッション「建築士資格と建築教育」，2019年9月4日（水）10:15～13:00，専任教員1名（建築）
- ・法政科学技術フォーラム出展，2019年9月15日（日），専任教員1名（SD）
- ・Institute for Geotechnical EngineeringによるWorkshop，2019年9月19日（木）10:00～13:00，ETH Zurich，専任教員1名（都市）
- ・2019年度FD教員セミナー，2019年9月28日（土）13:00～15:00，法政大学市ヶ谷キャンパスボアソナード・タワー26階A会議室，専任教員1名（都市）
- ・2019年度FD教員セミナー，2019年9月28日（土）13:00～15:00，土木学会 講堂，専任教員1名（都市）
- ・JABEEエンジニアリング系学士課程、建築系学士修士課程継続審査，2019年10月20日（日）～22日（火），法政大学，専任教員13名，助手1名，教務助手2名，EA，JABEE室職員2名（建築）
- ・講演「パイル業界の仕事」，2019年11月28日（木）15:30～16:30，法政大学小金井キャンパス W301教室，専任教員1名（都市）
- ・第2回自己点検懇談会，2019年12月12日（木），専任教員1名（SD）
- ・私情協 分野連携アクティブラーニング対話集会，2019年12月21日（土），専任教員1名（SD）
- ・自己点検委員会セミナー，2020年1月23日（木），専任教員1名（SD）
- ・教職員セミナー（オンデマンドコンテンツ）「数理・データサイエンス教育強化の芳香性について」，2020年2月20日，法政大学市ヶ谷田町校舎，専任教員1名（都市）
- ・論理的日本語記述のための参考書確認，2020年2月25日（火）9:00～10:00，法政大学市ヶ谷田町校舎，専任教員1名（都市）
- ・建築教育の国際通用性に関わる戦略小委員会，2019年度3回開催、建築学会、専任教員1名（建築）
- ・JABEE外部評価委員会，2020年2月25日～3月2日（コロナ対策によりメール審議），専任教員5名，JABEE室職員2名（建築）
- ・建築・都市JABEE懇談会，2020年2月26日（コロナ対策によりメール審議），専任教員5名（建築）1名（都市）

JABEE 室職員 4名

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・FD活動報告書
- ・WG活動報告書

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S	<b>A</b>	B
※取り組みの概要を記入。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人客員教員の受入れ（2017年度3名，2018年度1名，2019年度0名）</li> <li>・在外研究の奨励と計画的執行</li> <li>・海外研修プログラムを利用したワークショップの開催</li> <li>・国内外研究集会の主催や参加</li> <li>・国内外研究者との各種学術交流</li> <li>・科研費など外部資金の応募・獲得</li> <li>・学外コンペへの応募と受賞</li> </ul>			
<b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。			
特になし			
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。			
・特になし			

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

## 【この基準の大学評価】

<p>デザイン工学研究科では、FDに資する学内外の様々な研修会・講演会・ワークショップに教員を派遣し、研究科あるいは専攻の会議体で活動報告がなされ、それらの活動が教育改善に反映されており、評価できる。各教員は、FDに資する書籍・文献を収集・学習し、専攻（教室会議）など研究科の様々な会合において修得した知識・情報を開陳し、教育改善に努めている。さらに、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を積極的に講じている。</p> <p>次年度以降さらなる成果を残すためには、貴研究科の自己点検において「長所・特色」「問題点」を挙げることも必要であると考えられる。</p>
---

## III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】					
1	中期目標	持続的かつ効果的なグローバル化を推進する。					
	年度目標	(1) 研究科のグローバルな教育研究内容の取り組みを調査整理する。 (2) 効果的な取組みを抽出したロールモデルを検討する。					
	達成指標	(1) 調査結果の共有（教授会） (2) ロールモデルの作成					
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td>教授会執行部による点検・評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td> <p>(1) 研究科の各専攻で行われているグローバルな取り組みを調査した。米国・カリフォルニア大との合同研究（建築専攻）や中国・精華大学他との共同調査・ワークショップ（建築専攻），中国・土木学会との若手研究者WG（都市専攻），南フィリピン大学における技術英語演習（SD専攻）など各専攻で特色ある取り組みが行われており，効果的な取り組みと成果を教授会で共有した。</p> <p>(2) 今年度は効果的な取り組みや成果を抽出するにとどまり，ロールモデルの作成には至らなかった。グローバルな教育研究の取り組み内容は各専攻ごとで異なるため，専攻毎に取り組み内容を検討する必要がある。</p> </td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	B	理由
教授会執行部による点検・評価							
自己評価	B						
理由	<p>(1) 研究科の各専攻で行われているグローバルな取り組みを調査した。米国・カリフォルニア大との合同研究（建築専攻）や中国・精華大学他との共同調査・ワークショップ（建築専攻），中国・土木学会との若手研究者WG（都市専攻），南フィリピン大学における技術英語演習（SD専攻）など各専攻で特色ある取り組みが行われており，効果的な取り組みと成果を教授会で共有した。</p> <p>(2) 今年度は効果的な取り組みや成果を抽出するにとどまり，ロールモデルの作成には至らなかった。グローバルな教育研究の取り組み内容は各専攻ごとで異なるため，専攻毎に取り組み内容を検討する必要がある。</p>						

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	改善策	各専攻のグローバルな教育研究内容の効果的な取り組みや成果を参考に、各専攻で具体的なロールモデルの検討を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	グローバルな取り組みを調査し、多くの取り組みが行われ、その実態を把握したことは評価できる。しかし、カリキュラムにある海外研修プログラムのうち、海外研修プログラム1 (SCI-Arc)と海外研修プログラム2(ユタ大学)は最小催行人数を満たさず2019年度は実施されなかった。実施方法や実施時期、催行人数の適正化等を検討する必要がある。また効果的な取り組みを参考に、各専攻で新たな具体的な取り組みを検討する必要がある。
	改善のための提言	海外研修プログラムが実施されなかった原因を調査し、実施方法や実施時期、催行人数の適正化等、今後の検討を求める。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	実習をより効果的に行うためのものづくり環境の整備を進める。
	年度目標	(1)学部と連携して、特別事業(備品等購入)による造形製作室の整備を完了し、利用規則を整備する。 (2)利用状況や利用実態を調査する。
	達成指標	(1)新たな造形製作室の供用開始と利用規則の随時改善 (2)利用状況や利用実態の調査結果の共有(教授会)。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	(1)学部と連携した造形製作室整備の第一段階が完了し、利用規定に則った運用が開始された。 (2)造形製作室運営委員会および管理者が常時利用実態を把握し、円滑に運営が行われている。
	改善策	毎年の安全講習の方法について検討する必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	造形製作室の装備と安全性が向上したことは評価できる。授業での本格活用は次年度からであり、その状況を注視したい。 造形製作室だけでなく、各研究室のものづくりに対する作業や安全教育の実態を調査検討する必要がある。
	改善のための提言	造形製作室の安全講習には、学部と連携し、廃棄物処理の方法を含むように求める。また各研究室のものづくりに対する作業や安全教育の実態の調査を求める。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果の公表を促進する。
	年度目標	学生の国際的な活動について、その実態と成果を把握する。
	達成指標	活動実態の把握とその成果の共有(教授会)
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2016年度～2019年度の4年間にわたる大学院学生の海外活動の実態を調査した。その結果、修士課程・博士課程共に毎年度、多くの大学院生の国際会議での発表や海外調査活動が行われている実態が明らかとなった。データは3月の教授会で報告された(根拠資料-2)。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	4年間にわたる大学院学生の海外活動を調査し、その実態を明らかにしたことは評価できる。引き続き実態の調査を行うとともに、課題の抽出を行う必要がある。
	改善のための提言	継続的な大学院学生の海外活動の実態を調査するとともに、活動実態に潜む課題の抽出を求める。
No	評価基準	学生の受け入れ

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

4	中期目標	多様な経験を有する幅広い人材を受け入れるための仕組みづくりを進める。	
	年度目標	(1) 各専攻の人材受け入れ状況を調査し、国際的な人材の受け入れに関する効果的な施策を立案する。 (2) 留学生数増加のための効果的な施策を立案実施する。	
	達成指標	(1) 調査結果と効果的施策の共有（教授会） (2) 留学生数の1割増	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	(1) 2016年度～2019年度の4年間にわたる外国籍入学者数の実態を調査した。その結果、修士課程と博士課程および研究生を合わせた人数は増加傾向にある実態が明らかとなった。データは3月の教授会で報告された（根拠資料-1）。 (2) 2019年度は前年度比25%増であり目標を達成した。
		改善策	—
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	留学生数の1割増という具体的な目標を掲げ、その目標を達成できたことは評価できる。国際的で優秀な人材を受け入れるための施策を継続的に検討する必要がある。
		改善のための提言	優秀な国際的な人材を受け入れるための施策の検討を求める。
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行	
	年度目標	別2教員9名（5名の凍結と4名の返還）の内、4名の返還が解除されたため、学部と連携した教員の配置と年齢構成に配慮した人事計画の見直しを進める	
	達成指標	専攻（学科）毎の人事計画の立案と共有（教授会）	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	専攻（学科）毎の採用人事計画に従って、建築1名、都市1名、SD1名の教員を新たに採用し、2020年度より大学院教育に参画することが承認された。学部学科の人事計画と連携した採用計画を確認した。
		改善策	—
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	専攻（学科）毎の人事計画に沿った採用が行われたことは評価できる。引き続き、学部学科と連携した計画的な採用人事を検討する必要がある。
		改善のための提言	学部と連携した大学院全体の将来を見据えた採用人事計画の検討を求める。
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	多様な学生に対してその特性に沿った支援を行うため、実態を把握し適正な支援方法を検討する。	
	年度目標	留学生の支援状況とその対応について調査し、効果的な施策を立案する。	
	達成指標	調査結果と効果的施策の共有（教授会）	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	チューター制度を活用した留学生への支援の実態を調査した。年々、留学生が増加しており、よりきめ細かい支援が必要である実態が明らかとなった。
		改善策	学部と連携した留学生の学修実態や生活実態の把握が必要である。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	学部と共に大学院の留学生が年々増加しており、その学修実態や生活実態を把握する必要がある。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		改善のための提言	継続的な留学生の学修実態や生活実態を把握するよう求める。	
No	評価基準		社会連携・社会貢献	
7	中期目標		社会貢献、社会連携を推進加速するため、成果の見える化と窓口の明確化を進める。	
	年度目標		社会貢献や社会連携の成果を集約し、HP 等での公開をすすめる。	
	達成指標		成果の HP での公開	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
		理由		教員や学生の学外コンペや学会での受賞等の社会貢献や社会連携の成果を、その都度、研究科の HP で公開した。また SD 専攻では学部生も含め受賞した学生全員を集めた祝賀会を 1 月 17 日に開催した。
		改善策		学生のモチベーションを上げるための方法を検討する必要がある。
		質保証委員会による点検・評価		
所見			教員や学生の学外コンペや学会での受賞等の社会貢献や社会連携の成果の研究科 HP への公開は、項目ごとにトピックスの形で他のお知らせと混在して掲載されている。掲載方法を整理する必要がある。	
改善のための提言			HP の公開・掲載方法を検討するよう求める。	
<b>【重点目標】</b>				
研究科の持続的かつ効果的なグローバル化を推進するため、各専攻のグローバルな教育研究内容の取り組みを調査整理し、効果的な取組みを抽出したロールモデルを作成する。				
<b>【年度目標達成状況総括】</b>				
各専攻のグローバルな教育研究内容の取り組み、留学生の受け入れや支援状況、大学院生の海外活動状況を調査整理し、効果的な取組みを抽出した。グローバルな教育研究の取り組み内容は各専攻ごとに異なるため、専攻毎に特色を生かしたロールモデルを作成する必要がある。また実習を行うものづくり環境の整備状況の実態を明らかにした。こうした点で、年度目標は概ね達成された。ものづくりの安全講習方法や社会貢献・社会連携の成果の HP での公開掲載方法など新たな課題も明らかとなった。				

**【2019 年度目標の達成状況に関する大学評価】**

デザイン工学研究科では、各専攻のグローバルな教育研究内容の取り組み、留学生の受け入れや支援状況、大学院生の海外活動などの状況を調査整理して、それらの中で特に効果的な活動を明らかにしようとする取り組みは評価できる。今後、専攻毎に特色を生かしたロールモデルの作成が望まれる。

いくつかの海外研修プログラムにおいて最小催行人数を満たさずに 2019 年度は実施されなかったことについて、今後の改善が望まれる。

また、各評価基準の目標に関して、年度末での達成状況の自己評価は、多くが S または A となっていることは評価できる。

**IV 2020 年度中期目標・年度目標**

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	持続的かつ効果的なグローバル化を推進する。
	年度目標	海外プログラムの中止に伴う対応措置について検討を行う
	達成指標	対応措置の検討結果の共有（教授会）
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	実習をより効果的に行うためのものづくり環境の整備を進める。
	年度目標	造形制作室の充実とともに利用拡大について検討する
	達成指標	学部と連携して、効率的な利用実習提携方法について提案する
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果の公表を促進する。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	年度目標	国内外の多くの学会中止に伴い、学生の国内外の発表・公表の場について、その実態と成果の公表の場の調査・把握を行う
	達成指標	活動実態の把握とその成果の共有（教授会）
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	多様な経験を有する幅広い人材を受け入れるための仕組みづくりを進める。
	年度目標	留学生の出身国の偏りを是正し、学部と連携して文化圏の多様化を目指した検討を行う
	達成指標	適切な審査基準、推薦基準の方針の提案を行う
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
	年度目標	学部と連携した教員の配置と年齢構成に配慮した人事計画の見直しを進める
	達成指標	学部と連携して、研究科会議体の開催方法の見直しを行う
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	多様な学生に対してその特性に沿った支援を行うため、実態を把握し適正な支援方法を検討する。
	年度目標	留学生や就学困難者の実態の調査・把握を行うとともに、支援に関する対応方法について検討を行う
	達成指標	実態の調査結果と対応方法の提案及びその共有（教授会）
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	社会貢献、社会連携を推進加速するため、成果の見える化と窓口の明確化を進める。
	年度目標	産官学との共同研究等、社会貢献・社会連携の行える場を修士研究等に取り込むための検討を行う
	達成指標	研究成果のホームページや学協会等への公表
<p><b>【重点目標】</b>  海外研修プログラムである「海外研修プログラム1（建築学専攻科目）」、「海外研修プログラム2（全専攻共通科目）」、南フィリピン大学での「技術英語演習」の中止に伴う対応措置について検討を行う</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>  海外への論文投稿や国内での英語論文投稿などを学生に促すとともに、次年度への海外研修プログラム参加支援のための検討を行う。</p>		

#### 【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

デザイン工学研究科では、個々の「年度目標」は概ね適切である。しかし、「達成指標」については、目標との関連性や具体性に欠けるものが散見され、改善が望まれる。例えば、「人事計画の見直しを進める」に対して、「会議体の開催方法の見直し」は関連性が乏しく、適切でない。また、「海外プログラムの中止に伴う対応措置について検討を行う」に対して、「対応措置の検討結果の共有（教授会）」は内容が不十分である。重点目標にも掲げているように、教育課程・教育内容の根幹にかかわることであるから、具体的な達成指標の設定が望まれる。また、昨年度の改善策で言及された、具体的なロールモデルの検討も継続して行っていただきたい。

#### V 2019年度認証評価指摘事項に対する改善計画報告

No.	種別	内容
1	基準	基準1 理念・目的
	指摘区分	概評
	提言（全文）	ただし、社会学研究科とデザイン工学研究科では、「人材の育成に関する目的及び教育研究上の目的」を修士課程、博士後期課程で同一としているため、 <u>課程ごとにこれを定め、公表するよう改善が望まれる。</u>
	大学評価時の状況	大学ホームページでの「大学の教育目標」のデザイン工学研究科の箇所で、各専攻において「修士課程」と「博士後期課程」に分けて記述されていない。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	大学評価後の改善状況・改善計画	大学の教育目標のデザイン工学研究科の各専攻の部分で「修士課程」と「博士後期課程」を区分して記述するとともに、学則の改訂について2020年11月を目途に改善していく予定である。
	「大学評価後の改善状況・改善計画」の根拠資料	「特になし」
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	指摘区分	改善課題
	提言（全文）	<b>教育課程の編成・実施方針について、理工学研究科システム理工学専攻（修士課程）では教育課程の編成に関する基本的な考え方が示されておらず、デザイン工学研究科（博士後期課程）と専門職学位課程の法務研究科では、教育課程の実施に関する基本的な考え方が示されていないため、改善が求められる。</b>
	大学評価時の状況	大学ホームページの研究科内の「カリキュラムポリシー」に関する記述において基本的な考え方が示されていない。
	大学評価後の改善状況・改善計画	ホームページの「カリキュラムポリシー」に関する記述における基本的な考え方を示すとともに、履修の手引きも併せて変更を行う。改善時期は、2020年11月を目途に行う。
	「大学評価後の改善状況・改善計画」の根拠資料	「特になし」

#### 【認証評価結果における指摘事項への対応状況に関する評価】

『デザイン工学研究科では、「人材の育成に関する目的及び教育研究上の目的」を修士課程、博士後期課程で同一としているため、課程ごとにこれを定め、公表するよう改善が望まれる。』との認証評価結果の概評での指摘に対し、『大学の教育目標のデザイン工学研究科の各専攻の部分で「修士課程」と「博士後期課程」を区分して記述するとともに、学則の改訂について2020年11月を目途に改善していく予定である。』との改善計画が示され、評価できる。

また、『「教育課程の編成・実施方針」について、デザイン工学研究科（博士後期課程）では、教育課程の実施に関する基本的な考え方が示されていないため、改善が求められる。』との改善課題に対し、『ホームページのカリキュラムポリシーに関する記述における基本的な考え方を示すとともに、履修の手引きも併せて変更を行う。改善時期は、2020年11月を目途に行う。』との改善計画が示され、評価できる。

なお、これらの改善計画は、各専攻での審議後、専攻主任会議でとりまとめを行い、教授会承認を経て実施される予定である。計画通り、2020年11月を目途に実施されることが強く望まれる。

#### 【大学評価総評】

デザイン工学研究科では、各教員が最前線の情報を修得しながら教材開発と先端的研究課題の設定に努め、専門科目の高度化対応として各専攻にスタジオ科目やプロジェクト科目を配当し、また外部審査員の下で学習成果の検証が行われており、教育課程の質の向上への取り組みが評価できる。

教員と教員組織に関して、FDに資する学内外の様々な研修会・講演会・ワークショップに教員を派遣するとともに、研究科あるいは専攻の会議体で活動報告がなされており、資質向上への取り組みが評価できる。

2019年度認証評価結果における指摘事項に対して改善計画が示され、速やかな計画の実施が強く望まれる。

2020年度の年度目標・達成指標、および重点目標については具体性に欠けるものがあり、改善が望まれる。

海外研修プログラムにおいて、最小催行人数を満たさずに実施を見送ったものがあり、費用面での学生サポートが望まれる。一方、新型コロナウイルス感染症の影響で国際的な研究活動が制約を受け、状況に柔軟に対応しながら学生に質の高いプログラムが提供されることを期待する。また、継続して各専攻における具体的なロールモデルの作成検討も行っていただきたい。

貴研究科の今後の展開を期待したい。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。